

重点取組分野	令和元年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①基礎的・基本的な知識・技能定着のため継続して指導し、活用能力も高める。学状では全学年、全教科で市平均を少しでも上回るようにする。②家庭学習の定着について、保護者の90%以上が実感できるように推進する。定着できない児童は要因を分析し、各自に合った方法を模索していく。	①算数で技能の定着に弱みが見られたので、朝学習を設定し、ドリル学習に取り組んだ。また、「九九検定」を実施し、徹底して身につかせた。②家庭学習の定着についての保護者アンケートは、肯定的な回答が80%以上だったが、否定的な回答も20%あった。より定着するよう工夫・改善する。	A
豊かな心	①異学年集団での活動を設定し、豊かな関係づくりを図る。また、幼・保・小・地域との交流を行い、人との関わりを重視して自己肯定感、自己有用感を育てる。②挨拶があふれる学校になるよう、児童が主体的に取り組むあいさつ運動を展開する。また、道徳・人権教育を通して心の教育を推進する。	①「なかよし活動」を計画的に実施し、全校遠足では6年生が良きリーダーとなって活躍した。また、5年生が幼保の交流を行い、初めての試みだが大変喜ばれた。共に特色ある活動として今後も継続する。②学校をあげて取り組み児童の意識が変わった。自発的にするという児童が90%近くになった。	A
健やかな体	①保護者と連携して「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」を奨励し、規則正しい生活習慣の定着に努める。また、朝食を取らない児童を0にする。家庭科や特別活動などの教科等で栄養教諭と連携し、食育に関する授業を積極的に行う。②縄跳びを通して、体力作りを推進する。	①保護者の80%近くは肯定的、20%近くはできていないと答え心配な点である。今後も生活習慣の定着を図って充実した生活を送り、体の発育・発達により影響を与えるよう指導する。また、食育は栄養教諭が積極的に各学年に関わり、一定の成果を上げた。②長縄に計画的に取り組んだ。	B
児童生徒指導	①「学びのスタンダード」を共通理解し児童が安心して授業に取り組める学級風土を作る。また、「スタンダード」を活用し、地域・家庭・学校が連携して規範意識やモラルの向上を目指す。②「関わり合うことに楽しさを感じる子」を育てる。いじめ防止基本方針に基づく具体的な活動・取組をより明確にする。	①間違いを否定しない安心して発言できる学級風土・集中して学習に臨める雰囲気作り等を徹底して行い学級規律の確立に努めた。昨年度に比べ格段に落ち着いて学習に臨めた。②95%の保護者が「楽しく通学している」と答えた。今後も児童が期待をもって学校生活を送れるよう取り組む。	A
特別支援教育	①児童一人ひとりの特性や支援ニーズをよく把握し、児童支援専任を核にチームで指導に当たる。保護者との連携も密に行い、必要な情報を共有する。②校内委員会を開くなど、組織的且つ迅速に効果的な方法で取り組む。特別支援コーディネーターや主幹教諭が、組織的に体制づくりに取り組む。	①算数少人数学習や3～6年教科担任制、取り出しによる個別指導等を実施した。きめ細かい丁寧な指導や複数の視点からの児童の見とり、教師の得意分野を生かした専門性の高い授業が可能になり、学力向上につながっている。②関係機関との連携により効果的で迅速な支援ができた。	A
地域連携	①学校運営方針を積極的に発信し、地域・保護者に理解と協力を得る。また、児童が豊かに成長するために学援隊・保護者との顔の分かる関係づくりを継続して実施する。地域交流室を活用して一層の活動の充実を図る。②地域防災訓練を学校と地域の共催で実施し、防災意識の向上を図る。	①様々な媒体から運営方針、児童の様子について発信した結果、95%近くの保護者から「よくわかる」という評価を得た。また、地域のボランティア活動も盛んで、児童の成長に寄与している。②土曜参観で実施し、児童や保護者の防災意識向上に貢献した。2年目となったが今後も継続していく。	A
教育環境整備	①教育環境の改善を進めるとともに、使い辛さを克服するための工夫を行う。校舎の老朽化や使い勝手の悪い特別教室の改善を引き続き要望する。また、ミラムや校務システムを有効活用し、必要な職員研修を実施する。②校内緑化の推進について「花壇ボランティア」とともに全校で継続して実施していく。	①ミラム導入によって、打ち合わせの簡略化、意思疎通等に有効活用された。また、個別級の他児童と同一校舎への移動、日中解放の非常口へのドアの取り付け等、教育環境改善を行った。②花壇ボランティア(地域)の熱心な活動に触発されて、児童も環境整備に興味関心を持つようになった。	A
いじめへの対応	①定期的に教育相談を行いアンテナを高めて児童を見守ったり、相談活動を組織的に行う。また、いじめ防止対策委員会を毎月開催する。②いじめアンケートを年に複数回行い、具体的な取組や対応について全教職員で共有する。児童の心の動きや変化を捉えるため、カウンセリングスキル研修を行う。	①いじめは11件発生。研修や事例提示で職員の意識向上が図られ、早期発見に繋がった。また、防止対策委員会の定期的な開催によって組織的な動きが充実した。②いじめアンケートや児童間いじめを見逃さない意識が醸成されたことにより、未然防止や早期解決に役立つようになった。	A
人材育成・組織運営(働き方改革)	①授業力や児童指導・理解、危機管理等、教職員の力量向上のために、各自のキャリアステージに応じた研修を計画的に実施し、組織として人材育成を推進する。②教職員の負担を軽減し、児童と向き合う時間を確保するため会議の精選や組織の効率化に努めた。より効果を上げるために、教職員の「働き方改革」への意識を高めるよう管理職が指導する。	①「学年主任＝ドライバー」を意識させた。よく期待に応えて学校運営に尽力した。今後もメンバー研修やキャリアステージに応じた研修を実施し、次に続く人材育成を積極的に行う。②昨年度、会議や組織、行事の精選や見直しを行った成果がよく発揮された。特に学年研が充実し、チームとしての意識が向上した。職員室アシスタントも有効活用できた。	A
ブロック内評価後の気づき	授業公開や講演会では、教師の授業力向上に向けて、学校組織としての共通の取り組み(授業で生徒との信頼関係を築き、生徒に主体的な学習姿勢を育む等)について学び合い、意識を高めることができた。また、授業を見る視点を共通理解することで、協議会で活発な意見交換ができた。人権教育では、小中一貫を意識して全体計画見直した。児童生徒指導や特別支援教育の情報を共有し、自己有用感が高まる教育活動を目指すことができた。また、行事などで児童生徒や教職員が交流し相互理解を深めることができた。しかし、各学校、各教科で作成したぐるぐるを持参したが、内容を共有するにとどまってしまう、改善にまで		
学校関係者評価	防災訓練を土曜参観で実施した。昨年度の反省を生かして地域と話し合いを重ね、地域・学校・保護者が一体となって充実した訓練ができた。地域の満足度も高く、今後も防災意識の向上に向けて協力して実施する。地域行事は盛んに行われているが、保護者アンケートでは、余り参加していないという回答が多かった。地域は常に児童の成長を見守っており参加を促していきたい。「まちこん」等で、地域や民生・児童委員の方に児童の様子を見て頂く機会があるが、「以前に比べて随分落ち着いた。」という言葉を受けた。今後も地域の期待に応えられる学校となるよう、努力していく。		
中期取組目標振り返り	「学力向上」「特別支援教育の充実」「安心・安全な学校作り」を最重要目標に、様々な方策を駆使した。学力では、各教科共に基礎的・基本的な知識・技能の習得に課題が見られたので、繰り返しドリル的な学習に取り組ませることで多少改善した。次年度は、それらを活用する能力の構築に磨きをかけたい。更に、本校児童の苦手としている算数を重点研究に据え、初年度は、まず教師の授業力向上に取り組むことにした。また、引き続き関係機関と連携し、課題を抱えた児童の適切な居場所や指導を模索していきたい。スタンダードに対する意識は、職員、児童、保護者共に向上している。今後もよりよい教育環境構築のため、チーム吉原で		

重点取組分野	令和2年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、活用能力を高める。算数を重点研究にし、授業力・学力両面の向上に努め、市平均を上回るようにする。②家庭学習の定着についての保護者の95%以上が実感できるように働きかける。定着できない児童は要因を分析し、各自に合った方法を模索していく。		
豊かな心	①特活部を中心に「なかよし活動」を計画的且つ有効に実施し、異学年集団での豊かな関係作りを図る。また、幼・保・小・地域との交流を行い、人との関わりを重視して自己有用感を育てる。②児童が主体的に取り組む、より挨拶溢れる学校を目指す。また、道徳・人権教育を通して心の教育を推進する。		
健やかな体	①保護者と連携して、規則正しい生活定着に努める。また、朝食を取らない児童を0にする。家庭科や特別活動などの教科等で栄養教諭と連携し、食育に関する授業を積極的に行う。また、スマホ・ゲーム依存防止のための取組を行う。②縄跳び(長縄・短縄)を通して、継続的な体力作りを推進する。		
児童生徒指導	①「学びのスタンダード」をより徹底し、児童が安心して学校生活を送れる学級風土を作る。また、「スタンダード」を活用し、地域・家庭・学校が連携して規範意識やモラルの向上を目指す。②「関わり合うことに楽しさを感じる子」を育てる。いじめ防止基本方針に基づく具体的な活動・取組をより明確にする。		
特別支援教育	①児童一人ひとりの特性や支援ニーズをよく把握し、児童支援専任を核にチームで指導に当たると共に、関係機関と連携し、よりよい指導法を模索する。②校内委員会を開くなど、組織的且つ迅速に効果的な方法で取り組む。特別支援コーディネーターや主幹教諭が、保護者と連携し、情報の共有に努める。		
地域連携	①学校運営方針を積極的に発信し、地域・保護者に理解と協力を得る。また、児童が豊かに成長するために学援隊・地域・保護者との顔の分かる関係づくりを継続して実施する。地域交流室を活用して一層の活動の充実を図る。②地域防災訓練を学校と地域の共催で実施し、防災意識の向上を図る。		
教育環境整備	b8		
いじめへの対応	①定期的・組織的に教育相談を行い、アンテナを高めて児童を見守る。また、いじめ防止対策委員会を毎月開催する。②いじめアンケートを年に複数回行って児童間トラブルについて情報収集を行い、具体的な取組や対応を共有する。児童の心の動きや変化を捉えるため、カウンセリングスキル研修を行う。		
人材育成・組織運営(働き方改革)	①授業力や児童指導・危機管理等、教職員の力量向上のために、各自のキャリアステージに応じた研修を実施し、組織として人材育成を推進する。②職員室アシスタントの有効活用や会議等の見直しで生み出された時間を活用して教職員の負担を軽減し、児童と向き合う時間を確保する。より効果を上げるために、「働き方改革」への意識を高めるよう管理職が指導する。		
ブロック内評価後の気づき	授業公開や講演会では、教師の授業力向上に向けて、学校組織としての共通の取り組み(授業で生徒との信頼関係を築き、生徒に主体的な学習姿勢を育む等)について学び合い、意識を高めることができた。また、授業を見る視点を共通理解することで、協議会で活発な意見交換ができた。人権教育では、小中一貫を意識して全体計画見直した。児童生徒指導や特別支援教育の情報を共有し、自己有用感が高まる教育活動を目指すことができた。また、行事などで児童生徒や教職員が交流し相互理解を深めることができた。しかし、各学校、各教科で作成したぐるぐるを持参したが、内容を共有するにとどまってしまう、改善にまで		
学校関係者評価	防災訓練を土曜参観で実施した。昨年度の反省を生かして地域と話し合いを重ね、地域・学校・保護者が一体となって充実した訓練ができた。地域の満足度も高く、今後も防災意識の向上に向けて協力して実施する。地域行事は盛んに行われているが、保護者アンケートでは、余り参加していないという回答が多かった。地域は常に児童の成長を見守っており参加を促していきたい。「まちこん」等で、地域や民生・児童委員の方に児童の様子を見て頂く機会があるが、「以前に比べて随分落ち着いた。」という言葉を受けた。今後も地域の期待に応えられる学校となるよう、努力していく。		
中期取組目標振り返り	「学力向上」「特別支援教育の充実」「安心・安全な学校作り」を最重要目標に、様々な方策を駆使した。学力では、各教科共に基礎的・基本的な知識・技能の習得に課題が見られたので、繰り返しドリル的な学習に取り組ませることで多少改善した。次年度は、それらを活用する能力の構築に磨きをかけたい。更に、本校児童の苦手としている算数を重点研究に据え、初年度は、まず教師の授業力向上に取り組むことにした。また、引き続き関係機関と連携し、課題を抱えた児童の適切な居場所や指導を模索していきたい。スタンダードに対する意識は、職員、児童、保護者共に向上している。今後もよりよい教育環境構築のため、チーム吉原で		

重点取組分野	令和3年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	c1		
豊かな心	c2		
健やかな体	c3		
児童生徒指導	c4		
特別支援教育	c5		
地域連携	c6		
教育環境整備	c7		
	c8		
いじめへの対応	c9		
人材育成・組織運営(働き方改革)	c10		
ブロック内評価後の気づき	授業公開や講演会では、教師の授業力向上に向けて、学校組織としての共通の取り組み(授業で生徒との信頼関係を築き、生徒に主体的な学習姿勢を育む等)について学び合い、意識を高めることができた。また、授業を見る視点を共通理解することで、協議会で活発な意見交換ができた。人権教育では、小中一貫を意識して全体計画見直した。児童生徒指導や特別支援教育の情報を共有し、自己有用感が高まる教育活動を目指すことができた。また、行事などで児童生徒や教職員が交流し相互理解を深めることができた。しかし、各学校、各教科で作成したぐるぐるを持参したが、内容を共有するにとどまってしまう、改善にまで		
学校関係者評価	防災訓練を土曜参観で実施した。昨年度の反省を生かして地域と話し合いを重ね、地域・学校・保護者が一体となって充実した訓練ができた。地域の満足度も高く、今後も防災意識の向上に向けて協力して実施する。地域行事は盛んに行われているが、保護者アンケートでは、余り参加していないという回答が多かった。地域は常に児童の成長を見守っており参加を促していきたい。「まちこん」等で、地域や民生・児童委員の方に児童の様子を見て頂く機会があるが、「以前に比べて随分落ち着いた。」という言葉を受けた。今後も地域の期待に応えられる学校となるよう、努力していく。		
中期取組目標振り返り	「学力向上」「特別支援教育の充実」「安心・安全な学校作り」を最重要目標に、様々な方策を駆使した。学力では、各教科共に基礎的・基本的な知識・技能の習得に課題が見られたので、繰り返しドリル的な学習に取り組ませることで多少改善した。次年度は、それらを活用する能力の構築に磨きをかけたい。更に、本校児童の苦手としている算数を重点研究に据え、初年度は、まず教師の授業力向上に取り組むことにした。また、引き続き関係機関と連携し、課題を抱えた児童の適切な居場所や指導を模索していきたい。スタンダードに対する意識は、職員、児童、保護者共に向上している。今後もよりよい教育環境構築のため、チーム吉原で		

